

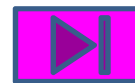
落花生(らっかせい)を栽培しよう！



落花生(らっかせい)で
作った人形(にんぎょう)



落花生(らっかせい)について勉強しよう



■ 落花生(らっかせい)

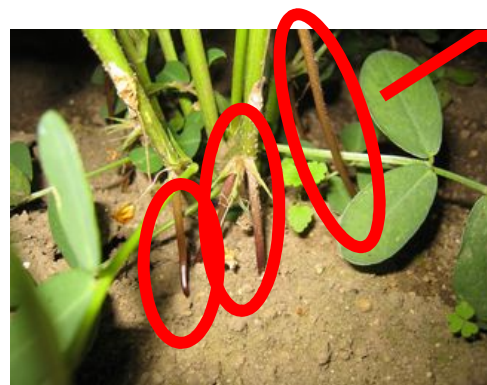
落花生(らっかせい)の種類(しゅるい)

らっかせいは、南米(南アメリカ)で生まれました。

“16世紀(せいき)”から“17世紀(せいき)”にかけて“南アメリカ大陸(たいりく)”にやってきたスペイン人やポルトガル人が、ヨーロッパにもちかえり、そこから世界中(せかいじゅう)に広まりました。日本には、300年くらい前の“江戸時代(えどじだい)”に中国(ちゅうごく)を経(へ)て伝(つた)わりました。



落花生
(らっかせい)
の花



「しぼうへい」ができ、土の中に入り落花生(らっかせい)になります。



収穫時期
(しゅうかくじき)
の落花生
(らっかせい)



農家(のうか)では、“地(じ)ぼし”のあと、“ぼっち”とよばれる円筒形(えんとうけい)につみ上あげて乾燥(かんそう)させます。

落花生(らっかせい)を栽培しよう!

栽培(さいばい)の流れ

畑(はたけ)の準備(じゅんび)
・土作りには何が必要(ひつよう)?
・畝(うね)? つくり
・マルチ? をしく

種(たね)を蒔(ま)く

鳥などの害(がい)を防(ふせ)ぐ

追肥(ついひ)をする

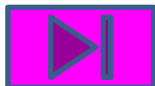
収穫(しゅうかく)する

乾燥(かんそう)させる

“土作り”には何が必要(ひつよう)?



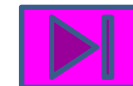
“畝(うね)”って何?



“マルチ”って何?



“鳥”の害(がい)をふせぐ?



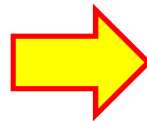
わかったかな!



落花生(らっかせい)を栽培しよう!

さいばいの途中(とちゅう)を見てみよう。①

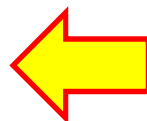
トラクタなどで畑(はたけ)をほりおこします。



ほりおこしが終わりました。



石灰(せっかい)や肥料(ひりょう)を畑にまいてまぜあわせます。



落花生(らっかせい)を栽培しよう!

さいばいの途中(とちゅう)を見てみよう。②

畑の準備(じゅんぴ)が出来ました。



畝(うね)を立て マルチをかけます。



種(たね)はどうやってまくの？



種(たね)を準備(じゅんぴ)します。



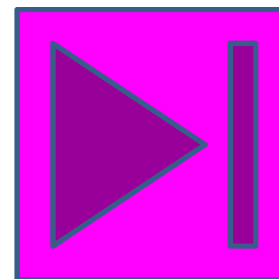
落花生(らっかせい)を栽培しよう!

さいばいの途中(とちゅう)を見てみよう。③

穴(あな)あきの「マルチ」をしようします。



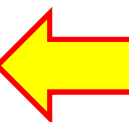
種(たね)をよこにおき、土をかけます。



芽(め)がでてきます。



鳥よけの糸をはります。



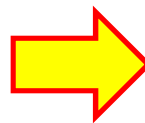
落花生(らっかせい)を栽培しよう!

さいばいの途中(とちゅう)を見てみよう。④

花がさきます。

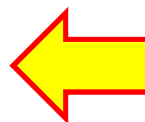
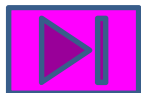


マルチをはがします。



この後(あと)どうなるでしょう?

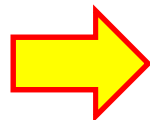
枝(えだ)がふえて大きくなってきます。



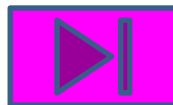
落花生(らっかせい)を栽培しよう!

さいばいの途中(とちゅう)を見てみよう。⑤

収穫(しゅうかく)します。
このままたべられるでしょうか?



塩茹で



実を上にして乾燥(かんそう)させます。



木から「カラ」をもぎとる
“きかい”でおこないます。

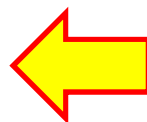
この後は

落花生屋さんへ

良い物だけを洗う～かんそう～
煎(い)る

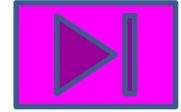
※食べられるようにする。

“ぼっち”でさらに乾燥(かんそう)させます。



さあ落花生(らっかせい)を食べてみよう！！

どうやって食べようか？



今まで食べた物を
考えてみよう！

落花生(らっかせい)をつくろう！！

おわり

“花”が咲(さ)いた後こうなります。



土の中の落花生
(らっかせい)



“しぼうへい”ができて
土の中にもぐります。
その先にカラができます。



塩茹(しおゆ)でにして食べます。



収穫(しゅうかく)
したら食べてみよう!



代表的(だいひょうてき)な食べ方

味噌(みそ)ピーナッツ



ピーナッツバター



このほかにも チョコレートやケーキの中に入っているよ！
まだまだ、色々なところで使われています。これから、おかしやおうちの方が
作ってくれた料理(りょうり)を食べた時に入っているか良く見てみよう！

おうちの方に作って
もらおう！



“畝(うね)”って何？

- 畑(はたけ)の土を細長(ほそなが)く盛り上げた栽培床(さいばいどこ)のことを「畝(うね)」とよび、畝(うね)をつくることを「畝立(うねた)て」といいます。水はけをよくし、また栽培場所(さいばいばしょ)と通路(つうろ)の区別(くべつ)をすることで、野菜(やさい)の生育管理(せいいくかんり)がしやすくなります。
- 畝(うね)をつくる前には、次のことを決めておきましょう。

①畝(うね)の向き

畝(うね)の向きは、平地(へいち)では東西(とうざい)へと横(よこ)に細長くつくるのが一般的(いっぱんてき)です。

②畝(うね)の高さ

高さが5~10cmだと「平畝」(ひらうね)とよぶ→落花生(らっかせい)で使います。

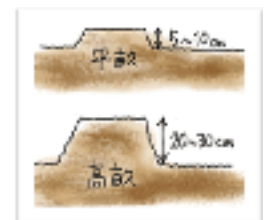
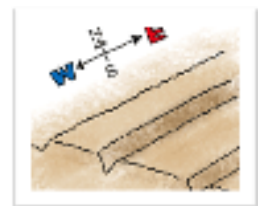
水はけのよい畑(はたけ)向き

高さが20~30cmだと「高畝」(たかうね)とよぶ→ゴーヤーで使います。

水はけのわるい畑(はたけ)向き

③畝(うね)の幅(はば)

- ・1列(いちれつ)で野菜(やさい)を育てる場合と2列(にれつ)で野菜を育てる場合(ばあい)とで考(かんが)えます。
- ・育てる野菜(やさい)によって、必要(ひつよう)な畝幅(うねはば)が違(ちが)う。
- ・畝(うね)の間(あいだ)の通路(つうろ)には、20~30cmの幅(はば)をとっておきます。



“畝(うね)”の種類(しゅるい)

ヤーコンの畝



ジャガイモの畝



落花生の畝



ゴーヤーの畝



“マルチ”って何？

うすいポリエチレンフィルムを地表面（ちひょうめん）に密着（みっちゃく）させてうねに敷（し）きつめることを「マルチング」といいます。

“マルチング”の効果（こうか）

- (1) 土の温度（おんど）を高めます。
- (2) 土の乾燥（かんそう）を防（ふせ）ぎます。
- (3) 土が固（かた）くなるのを防（ふせ）ぎます。
- (4) 肥料（ひりょう）が、流れ出るのを防（ふせ）ぎます。
- (5) 雨がふった時に、葉の裏（うら）に土がつくと病気（びょうき）にかかりやすくなるので、それを防（ふせ）ぎます。
- (6) 光（白、銀色（ぎんいろ）マルチ）が反射（はんしゃ）して害虫（がいちゅう）が寄りつかないようにします。
- (7) 雑草（ざっそう）が出るのを、防（ふせ）ぎます。

など、色々（いろいろ）な効果（こうか）があるので、たくさんの種類（しゅるい）の野菜（やさい）に使われるようになりました。

“マルチの使い方”

マルチは土の乾燥(かんそう)や雑草(ざっそう)がはえるのをふせぐ効果(こうか)があります

落花生



ゴーヤー



サツマイモ



“土作り”に必要なもの①

植物（しょくぶつ）をそだてるためには。三大栄養素（さんだいえいようそ）が必要（ひつよう）です。



三大栄養素（さんだいえいようそ）とは
チッソ {N} ・リン酸(さん) {P} ・カリウム {K} です。

そのほかには、ミネラルとよばれるビタミン、鉄分（てつぶん）、カルシウムなどが必要（ひつよう）です。これらのバランスがくずれると葉が黄色（きいろ）くなったり、葉が枯（か）れたりします。そうになると病気（びょうき）や虫に食べられたりします。植物（しょくぶつ）が持っている病気（びょうき）をなおす力を超（こ）えてしまい枯（か）れてしまいます。
肥料（ひりょう）は少なすぎず、多すぎず使いましょう。

①チッソ {N}

チッソは葉を育（そだ）てるのに必要（ひつよう）な栄養素（えいようそ）です。油粕（あぶらかす）に多く含（ふく）まれています。



“土作り”に必要なもの②

②リン酸(さん){P}

リン酸(さん)は、花を咲(さ)かせるための栄養素(えいようそ)です。

農業(のうぎょう)では、実(み)ができる野菜(やさい)や果物(くだもの)を栽培(さいばい)するときに元肥(もとごえ)として使(つか)います。

リン酸(さん)が少ない家の庭(にわ)で、花を栽培(さいばい)しても花がきれいに咲(さ)きません。牛ふんや鶏(けい)ふんに多くふくまれています。



③カリウム{K}

カリウムは、根(ね)を丈夫(じょうぶ)にするために必要(ひつよう)な栄養素(えいようそ)です。挿(さ)し木(き)や挿(さ)し芽(め)で、植物(しょくぶつ)を増(ふや)す場合(ばあい)には、特に必要(ひつよう)です。

ダイコンやゴボウなどの根野菜(ねやさい)には、かかせない栄養素(えいようそ)です。

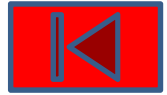
その他(ほか)の栄養素(えいようそ)

①ミネラル

土(つち)や水(みづ)、空気(くうき)のなかあり、自然(しぜん)に植物(しょくぶつ)に吸収(きゅうしゅう)されます。しかし、空気(くうき)や水(みづ)が汚(よご)れてくると、植物(しょくぶつ)に悪(わる)い影響(えいきょう)あたえてしまいます。



“土作り”に必要なもの③



その他（ほか）栄養素（えいようそ）

②カルシウム

野菜（やさい）が育（そだ）ちやすい土にします。

肥料（ひりょう）をよくとれるように、根をじょうぶにします。キャベツ、ホウレンソウ、セロリなどを育（そだ）てるには、必要（ひつよう）です。

石灰（せっかい）に含（ふく）まれています。

③酸化（さんか）マグネシウム {苦土（くど）ともいいます}

葉緑素（ようりょくそ）を作り、不足（ふそく）すると葉が黄色くなります。



■ 今回（こんかい）使う肥料（ひりょう）

○石灰（せっかい）

土により過リン酸石灰（かりんさんせっかい）・苦土石灰（くどせっかい）・その他（ほか）を選択（せんたく）

○馬糞堆肥（ばふんたいひ）

土に合（あ）わせ牛糞（ぎゅうふん）・鶏糞（けいふん）
・馬糞（ばふん）・その他（ほか）を選択（せんたく）

○化学肥料（かがくひりょう）

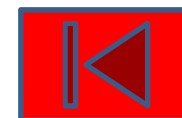
土によりチッソ・リン酸（さん）・カリウムの配合（はいごう）
を選択（せんたく）



“鳥”のいたずらから種(たね)を守(まも)る！



種(たね)をまいた上に
糸をはって“鳥”のいたずらを防(ふせ)ぐ



落花生(らっかせい)の種類(しゅるい)と呼(よ)び名(な)

落花生(らっかせい)の種類(しゅるい)

- ・ナカテユタカ
- ・チバハンダチ
- ・テコナ
- ・アズマユタカ
- ・ダイチ
- ・サトノカ
- ・サヤカ
- ・オオマサリ など

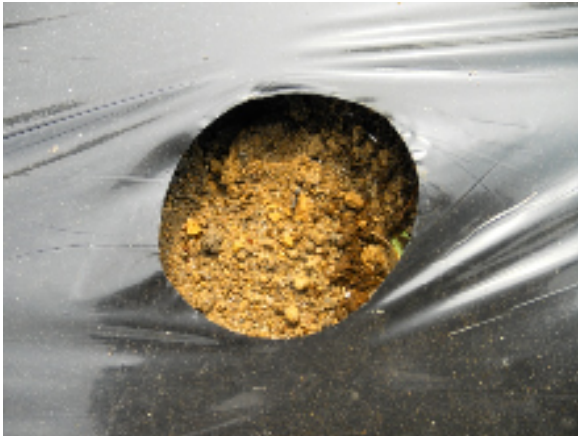
落花生(らっかせい)の色々(いろいろ)な呼(よ)び名(な)

- ・ピーナッツ
- ・なんきんまめ
- ・とうじんまめ
- ・ジーマミー
(おきなわ) など



落花生(らっかせい)の種のまきかた

マルチの穴



種を横にして、まんなかにおきます



種の上に、土をかけます



種を指で、すこしおさえます



落花生(らっかせい)の種の中をみてみよう

種を割ってみました



これが大きくなって芽(め)になります。



上の方が芽です

下から根が出ます

